



「さがみロボット産業特区」の 継続（第3期）について

2022年12月

神奈川県産業労働局産業部
産業振興課

「さがみロボット産業特区」の取組

特区の目標

生活支援ロボットの実用化を通じた地域の安全・安心の実現

政策課題

- 県民の「いのち」を守る
 - ・ 少子高齢化
 - ・ 切迫する自然災害
- 県内産業の振興
 - ・ ものづくり中小企業の岐路（EVシフト、脱炭素、デジタル化、事業継承…）
 - ・ ロボットの需要拡大（非接触、遠隔…）

解決策

○ 「特区発ロボット」の創出

ロボットのある生活

- ・ 研究開発・実証実験等の促進

地域経済の活性化

- ・ 関連産業の集積促進

コロナ・DX・サプライチェーン…

特区第3期に向けた市町の期待

更なる産業振興の取組が求められている

第3期に向けた方向性

これまでの取組は堅持しつつ

- (1) 中小企業のロボット産業への
参入支援
- (2) ロボットの社会実装の加速化
- (3) 最先端技術の活用による
新たな普及啓発

に取り組む

(1) 中小企業のロボット産業への参入支援

課題

「**中小企業目線**」で、
中小企業のロボット産業への参入を支援



方向性

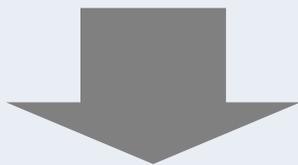
特区内市町等と連携し、
ロボット**部品を作る**中小企業を掘り起こし
ロボット産業参入の「**きっかけ***」**づくり**に取り組む

※ (例) ロボット開発企業と県内中小企業のマッチング等

(2) ロボットの社会実装の加速化

課題

多くの県民が利用する施設への**ロボット実装の促進**



方向性

施設とロボット開発企業を**つなぎ**、
優良な**導入事例**を創出し、**横展開**へと繋げる



(3) 最先端技術の活用による新たな普及啓発

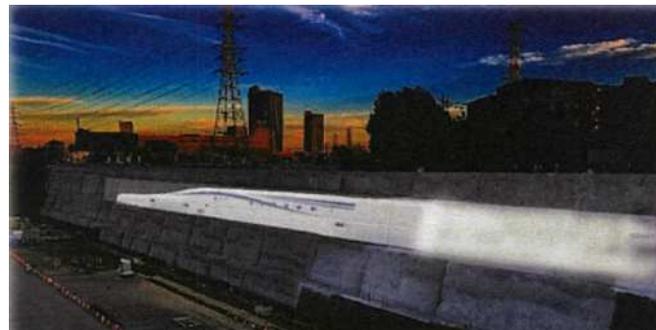
課題

県民、産業界の
「ロボットで‘まち’の価値を上げる」という**共通認識の醸成**



方向性

鉄道事業者等と連携しながら、
最先端技術を活用して、体感できる機会を創出



第3期計画におけるKPI

課題を踏まえた新たな取組により、更なる成果を目指す

	実績 (目標) ※いずれも累計値	第2期	→	第3期	
		2018~2022 目標		2023~2027 目標	
1	商品化件数	25件	→	30件	目標を上積み
2	実証実験数	200件	→	300件	目標を上積み
3	企業誘致施策等を活用した特 区内企業数	35件	→	35件	
4	特区に参加する県内中小企業	100社	→	170社	取組み強化
5	導入施設数	250箇所	→	500箇所	取組み強化
6	体験する取組への参加人数	90,000人	→	90,000人	

特区の継続に向けて

協議会メンバーと連携し特区計画を継続

【スケジュール】

1 2月下旬	さがみロボット産業特区協議会 書面開催 議題：第3期計画書の提出について
1月中旬	国へ第3期計画書を提出
3月	第3期計画の認定